

日本心臓血管麻酔学会 第30回学術大会  
ランチョンセミナー4 (LS4)

Maruishi  
Pharmaceutical  
Co., Ltd.

信頼と合意

理想的な小児・成人の心臓血管麻酔管理  
- 術前～術後のQOL向上を目指して -

日時

2025年9月19日 (金)  
12:30 ~ 13:30

会場

第4会場 (5階 511+512)  
パシフィコ横浜 会議センター  
〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1

●本セミナーは整理券制です  
会議センター3F フォワイエ  
(当日配布 8:00~12:00)

座長

齋藤 淳一 先生  
弘前大学大学院医学研究科麻酔科学講座 教授

小児心臓血管手術の術後鎮痛 - 最近の話題 -

演者

泉 薫 先生  
福岡市立こども病院 麻酔科 科長

理想的な成人の心臓血管麻酔管理  
- 術後の回復促進に向けて -

演者

一ノ宮 大雅 先生  
長崎大学大学院医歯薬学総合研究科  
麻酔集中治療医学 麻酔学教室 講師

## ランチョンセミナー4 (LS4)

### 小児心臓血管手術の術後鎮痛 - 最近の話題 -

小児の先天性心疾患は年齢、体格、解剖学的特徴、併存疾患などが多様であり、小児心臓血管麻酔においては個別化された周術期管理が求められる。近年Enhanced Recovery After Surgery (ERAS) の概念が小児心臓外科領域にも応用されつつあるが、良好な術後鎮痛はERASに不可欠である。

本セミナーでは、小児心臓手術後の術後鎮痛に焦点を当て、最近の知見やエビデンスに基づく戦略について概説する。特に、神経ブロックの活用、デクスメトミジンの持続静注、非オピオイド性鎮痛薬の併用など、多様なアプローチを紹介する。また、鎮痛とQOLの関連や、術後早期離床・退院への寄与についても言及し、臨床応用への示唆を提供したい。

術後の疼痛管理は、単に苦痛を緩和するのみならず、患者の早期回復、合併症の予防、心理的負担の軽減にも寄与する重要な要素である。今後の小児心臓血管麻酔における、より洗練された個別化鎮痛戦略について考えていきたい。

泉 薫 先生

### 理想的な成人の心臓血管麻酔管理 - 術後の回復促進に向けて -

“理想的な麻酔管理”とはどのようなものであろうか。術中・術後のバイタルサインの安定、止血が良い、覚醒の質が良く不穏・せん妄がない、術後の吐気や痛みが少ない、など様々な要素が含まれるが、臨床における最終的な目標はやはり“予後の改善”であり、それを達成できる管理が“理想的な麻酔管理”であろう。一方で、“予後の改善”には麻酔管理だけでなく、患者因子、手術因子、リハビリテーションまで含めた術後管理など無数の因子が関与するため、麻酔管理と予後を直接的に結びつけるエビデンスを示すのは容易でない。しかし、遠くの目標地点に向かう上で、足元の一步を正しい方向に踏み出すことが重要だとすれば、最終的な“予後の改善”に向けてまずは術後の早期回復が得られる管理を目指すことに異論はないと思う。

近年の周術期管理では、術後早期回復を目的としたEnhanced recovery after surgery (ERAS) プロトコルの導入が推奨されている。心臓手術においても2019年のJAMAにガイドラインが掲載され、ERASプロトコル導入の効果に関するエビデンスも散見されるようになった。心臓手術でのERASプロトコル導入が予後へ与える影響については明らかでないが、プロトコルに示される様々な介入項目には麻酔科医が比較的容易に介入できるものも多く、足元の一步を正しい方向に踏み出すためにも積極的に行うべきであろう。一方で、プロトコルで推奨される、Goal-directed fluid therapyや術後6時間以内の抜管に向けた戦略などを形式的に行えばよいという訳ではない。これらはあくまで、体液量の適正化や人工呼吸器からの早期離脱に向けた介入の重要性を示しているのであり、個々の症例での最適化を図ることがなによりも重要である。

本講演では、心臓手術でのERASプロトコルを踏まえ、術後の早期回復に向け麻酔科医が行うべきことに目を向け、理想的な成人の心臓血管麻酔管理とは何かについて考えてみたい。

一ノ宮 大雅 先生